

第16回全国障害者芸術・文化祭あいち大会について

1 開催概要

障害のある方の芸術・文化活動を通して、障害のある方の社会参加の促進や、国民の障害への理解、認識を深めることを目的として、平成28年12月3日(土)から12月11日(日)まで開催した。

2 会場（名古屋栄周辺6施設）

愛知芸術文化センター、名古屋市民ギャラリー栄、
ナディアパーク、名古屋栄三越、
㈱三井住友銀行 SMBC パーク 栄、
損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホール

※ 会場間及び名古屋駅間を結ぶ無料シャトルバスを運行



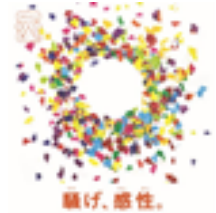
愛称・ロゴマーク

「ゲイジュツのチカラ・あいち」

3 事業内容

(1) オープニング（12月9日）

- ・開会式
- ・「Unlimited!」NHKスペシャルダンスステージ
- ・コンサート「聞こえる色、見える音 in あいち」
（東京藝術大学(卒業生) & 愛知県立芸術大学オーケストラ）



騒げ、感性。

メインビジュアル

「騒げ、感性。」

(2) 美術・文芸作品の展示（12月3日～11日）

- ・全国公募作品展（803点、うち県外110点）
展示内容：絵画、書道、写真、彫刻、陶芸、オブジェ、刺繍、短歌、俳句等
- ・紹介作品展（招待作家 山下清氏・澤田真一氏始め39名）
- ・あいちアール・ブリュット優秀作品特別展（30点）
- ・触れる絵画・彫刻
東京藝術大学の3D印刷等技術で再現されたゴッホ等の複製絵画等の展示

(3) 舞台・ステージ発表（12月10日～11日）

- ・公募舞台・ステージ発表（60団体、うち県外12団体）
内容：音楽、ダンス、演奏、演劇等
- ・大会独自のプロデュース舞台「親指王子」（出演者116名）
12月10日公演 ※「第31回国民文化祭・あいち2016」でも発表
- ・招待公演（音楽演奏、人形劇、語り等 18団体）

(4) ふれあい交流（12月9日～11日）

- ・講演会・シンポジウムの開催
建畠 哲氏（多摩美術大学学長、あいちトリエンナーレ2010芸術監督）
九代 玉屋庄兵衛氏（からくり人形師） 等
- ・クライミング体験
- ・授産製品コンペティション
- ・アートオークション

- ・ロボット展示
愛知県立大学次世代ロボット研究所のロボット展示
ロボカップ2017名古屋大会PRブース [併催]
- ・バリアフリー映画の上演
- ・障害者ワークフェア [併催]
障害者福祉事業所等のブース出展、ゲイジユツ&ワークカフェ 等

(5) 大会参加者へのPR

- ・あいち大会バスツアー（12月9日、10日）
大会会場をコースに組み込んだツアーを旅行会社と企画・催行
催行：2コース（小牧ワイナリー、介助犬総合訓練施設シンシアの丘）
- ・スタンプラリー（12月8日～11日）
5会場にスタンプを設置、参加者には県内の福祉事業所で作られたハンドク
リームやクッキーの他、缶バッジ等を配布

4 2020 東京オリンピック・パラリンピック公認プログラム

- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の公認プログラムと
して認定。
- ・全国大会では初の取組として、奈良県、大分県、鳥取県で開催されたサテライ
ト型の芸術・文化祭との連携展示を実施。

5 バリアフリー対応等、障害の有無に関わらず楽しめるような取組

- ・会場に手話通訳者、要約筆記者（一部ノートテイカー）を配置し、舞台発表や
問合せ等に対応。講演会では、あわせて磁気ループを設置。
- ・ホームページに会場のバリアフリー情報を掲載。
- ・ボランティアの事前研修で簡単な手話講座を実施。
- ・作品展示においても、触れる作品の展示や、タブレット型端末による作品紹介、
VR体験など、障害のある方・ない方がともに楽しめるよう工夫。

6 大会の結果・成果等

- ・来場者数は、目標30,000人を大きく超える59,062人となり、過去最大規模
の大会となった。
- ・美術・文芸作品の公募作品数が803点、舞台・ステージ発表は60団体となり、
過去最大の参加数となった。
- ・来場者を対象に実施したアンケート結果では、96%の来場者が大会の印象を
「良かった」「大変良かった」と回答、また90%の来場者が「大会に参加して
芸術・文化に対する関心が高まった」と回答し、さらに個別の感想でも障害
のある方の作品や大会についての満足度は高い結果となった。